

プロジェクト名: 〇〇〇CSIRT 構築プロジェクト

組織内で類似する複数のCSIRT構築活動が行われる場合があるため、プロジェクト名は意外と重要。内容を表す名前を付けることで認知されやすくなる。

組織内 CSIRT 構築 構築活動のためのプロジェクト憲章

(バージョン 1.0 2021年 X月 X日)

担当部署	作成者
〇〇〇部 〇〇課	〇〇 〇〇

	〇〇課	〇〇課	〇〇課	
審議欄				

承認者

なぜCSIRTが必要なのかを記述する。CSIRT構築に至るまでの経緯や、担当者の思いを記述する。

プロジェクトの背景

- (例) 会社全体としてのインシデント対応体制整備の必要性
- (例) 社内で発生するコンピューターセキュリティインシデント対応にかかる技術支援リソースを一元化し、インシデントへ迅速かつ効率的な対応体制を整備するため。

計測可能な具体的な表現が好ましい

プロジェクトの達成目標

- (例) インシデント対応を専門とするチーム (CSIRT) を構築し、従業員に周知する。

プロジェクトによって新しく作成するもの

プロジェクトの成果物

- (例) CSIRT 記述書
- (例) インシデントハンドリングに関する業務フロー図

プロジェクトにかかるコストと使うことのできる予算

コストと見積もり

- (例) 担当者の人件費
- (例) 100 万円程度

プロジェクトの実施期間または終了日

納期

- (例) 202x 年 mm 月 dd 日

プロジェクトが完了するための具体的な条件

プロジェクトの完了条件

- (例) 構築された CSIRT の機能について〇〇部長によるチェックが完了すること

メンバー名と、プロジェクトチームの形態

プロジェクトのメンバーと組織形態

- (例) 〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇
- (例) 経営企画部情報セキュリティ室内に設置

メンバーの権限や、メンバー間の情報共有方法など

プロジェクトのメンバーの役割と責任および運用ルール

- (例) メンバーはプロジェクトの活動に積極的に参加すること
- (例) メンバーは、2週間に一度定められた会議に参加すること
- (例) CSIRT 構築活動のためのメーリングリストは、csirt-info@〇〇〇〇.co.jp とする

プロジェクトによる学習効果

- (例) 参加メンバーは、インシデントハンドリングにかかるノウハウを習得できる
- (例) 組織全体のインシデント対応能力の向上が期待できる

プロジェクト参加により、メンバーはどのようなスキルアップが期待されるか、また、組織にどのような能力向上が期待されるのかなど。